

■榊原弥生 第一次世界大戦の終から満州事変までのいわゆる戦間期の京都で、婦人運動を主導した。

さかきばらやよい
帝国大学始・1886＝

山形県鶴岡で、旧庄内藩士の娘に生まれる。
官軍に敗れた庄内藩は、維新後も士族の子弟に対する儒学(徂徠学)の教育を徹底させる一方、城を明渡すにあたって西郷隆盛の計らいで寛大な措置があったことから、隆盛を崇拜するようになり、征韓論で敗れ下野した隆盛の開いた私学校に、薩摩以外唯一入学を認められるという特異な存在となった。

帝国憲法発布1889＝ 3歳：

二人の入学生は西南戦争で隆盛に従い戦死、その一人榊原政治が叔父という榊原家の思いを背景に。9歳年上で押川方義の東北学院で学びキリスト教徒になっていた兄政雄から大きな影響を受けて育ち、

日清戦争始・1894＝ 8歳：この年、押川方義が巖本善治らと大日本海外教育会を創立、

日清戦争終・1895＝ 9歳：

白馬会・・・1896＝10歳：この年の三陸大津波の際、兄政雄は師押川方義らと被災地に向かい救済に尽力。

田中正造直訴1901＝15歳：ごく当然のように、巖本善治が独自の教育思想で主宰する明治女学校に入学、

おそらく巖本善治からも目をかけられ、犠牲献身の精神が強く涵養され、

日露戦争始・1904＝18歳：撰科を卒業、この頃、兄政雄は熊本の組合教会牧師に赴任していたが、教会を訪れた第五中学に入学したばかりの同郷の大川周明に強い感銘を与えている。

日露戦争終・1905＝19歳：

満鉄発足・・・1906＝20歳：専攻科を卒業(野上弥生子と同期)、以後、おそらく兄の転任に従いながら、熊本女学校、東京女子商業学校、大連女学院の教職を転々とする。この間、政雄の妹ということで、大川周明から結婚を求められるが、兄の家庭ばかりか、早世した姉の娘2人を育てるという現実に加え、兄から国家のために奉仕することを期待されて、実現には至らなかった。

明治天皇没・1912＝26歳：

大正政変・・・1913＝27歳：

兄政雄は満鉄の支援を受けて奉天で大農場を経営するに至り、大川周明の研究費を支援するなどしていたが、手違いから難儀するようになったようで、兄のもとを離れて帰国したらしく、

べ姉仁条約・1919＝33歳：この年、_[大阪朝日新聞]主催で第一回婦人会関西聯合大会が開催され、平塚らいてうが講演後、新婦人協会設立趣意書を配布。母体の一つ京都PL会を、厨川白村の発案と協力で、その夫人蝶子とともに結成したこともあり、最も深く共感、

大暴落・・・1920＝34歳：この年には瀬尾チカの成安裁縫学校の専任講師となり、数学と習字を教えている。***上京し、創立された新婦人協会の事務所に平塚らいてうと市川房枝を訪ねてPL会の報告後、三人で大山郁夫らの政談演説会に行き、治安維持法違反で取り調べを受けるも毅然と対応、機関誌{女性同盟}創刊号に決意の所感を寄せているが、思想的なズレが生じたためか、PL会から脱して、京都婦人聯合会を組織、西日本一帯の全関西婦人聯合会のなかに重要な位置を占めて、活動を展開することになり、**

原敬首相暗殺1921＝35歳：新婦人協会会費の納入の欄から消えてしまう。**_第一回京都婦人聯合会大会を開催、開会の辞を述べる。この年には、国際聯盟京都支部婦人会代表にもなっている。**

水平社結成・1922＝36歳：この年、大川周明が渡満して兄政雄に会った時には窮乏状態になっていた。京都婦人聯合会第二回総会では、瀬尾チカに頼んで演壇に立ててもらっているが、のち成安女子学院になると、同窓会の副会長となって瀬尾を支えながら、ともに婦人運動をして行くことになる。以後、講演会を度々開催、

関東大震災・1923＝37歳：この年、組織を拡充してきた婦人会関西聯合大会が全関西婦人聯合会と改称、

護憲三派圧勝1924＝38歳：会報{婦人}を創刊している。

円本時代始・1926＝40歳：京都婦人々事相談所を開設。

金融恐慌・・・1927＝41歳：奥丹後大震災には、会として支援活動。{京都婦人聯合会々報}を創刊し、「京都婦人聯合会歴史」を掲載。婦選同盟に入会、市川房枝との書簡往來が度々になる。男女貞操平等にむけた刑法改正を婦人団体が共同して決議し、星島二郎代議士に依頼するのに参加、

共産党事件・1928＝42歳：結成された京都府下聯合婦人会と提携し、京都府聯合婦人会を結成。関西で改正に賛成する代議士の返書を集めた恩田和子とともに、星島に面会するなど、熱心に取り組み、

世界恐慌・・・1929＝43歳：丸物百貨店内に育児健康相談所を開設。会員数も2万人を超えるまでになり、_**御大札記念日に、(改称)京都市聯合婦人会設立趣意書を発表。**

海軍軍縮条約1930＝44歳：普段表立った発言を抑えるたちながら、第11回大会では、刑法改正について活発に発言。***御大札で下賜された資金で、御下賜記念会館を建設し、ようやく事務所を確保。全日本婦選大会に参加、市川房枝から感想文を求められ、ポイントを箇条書きで返すなどし、なお市川の強い働きかけを受けるうち、この年京都で開催された金子しげりらの講演会で感銘を受け婦選同盟に入会してきた黒部妙と出会うや互いに共鳴し、婦選同盟京都支部を設立、以後急速に進展する。この年、国主導で大日本婦人聯合会創設が目論まれたのに、全関西婦人聯合会是不参加を決議するも、切崩しが行われて行くことを危惧、**

満州事変・・・1931＝45歳：婦人会館落成式。婦選獲得同盟などと、京都府立女子専門学校廃止反対運動を行い、撤回させる。

五一五事件・1932＝46歳：平安女学院で、満州国婦人使節講演会。会館維持費のための大慈善市を開いて、多額の利益を得るなど、経済的には自立するが、京都市長を戴くなどしたため、市役所の力が強まり、自主性の確保に困難をきたすようになる。婦選運動の方は昂揚し、最初の共同運動“婦選デー”が実現するなか、経営に行き詰まった兄を助けるべく奉天行きを計画、黒部に懇願され思い止まるが、大川周明の縁もあって、神武会の婦人部長に就任するなどして、周囲からファッション化しているように見られ

国際連盟脱退1933＝47歳：婦選運動の方も、早くも戦術転換を迫られている。

帝人疑獄事件1934＝48歳：金子しげりらと話すうち、自らが踊らされてきただけと感じたのか、直後に***京都市聯合婦人会を退会。**

芥川直木賞始1935＝49歳：脳脊髄膜炎に罹り、京大病院に入院するも、兄政雄に弟、自ら育てた甥姪ら、联合会同志の水口絲子に看取られ、_**没した。最初の京都市聯合婦人会葬となった。**

京都橘女子大「京都の女性史」、